

将来にわたって旅行者を惹きつける 地域・日本の新たなレガシー形成事業 戦国最強の武将「上杉謙信公」の魂が眠る 戦国最強の山城「春日山城」の復元実現可能性調査

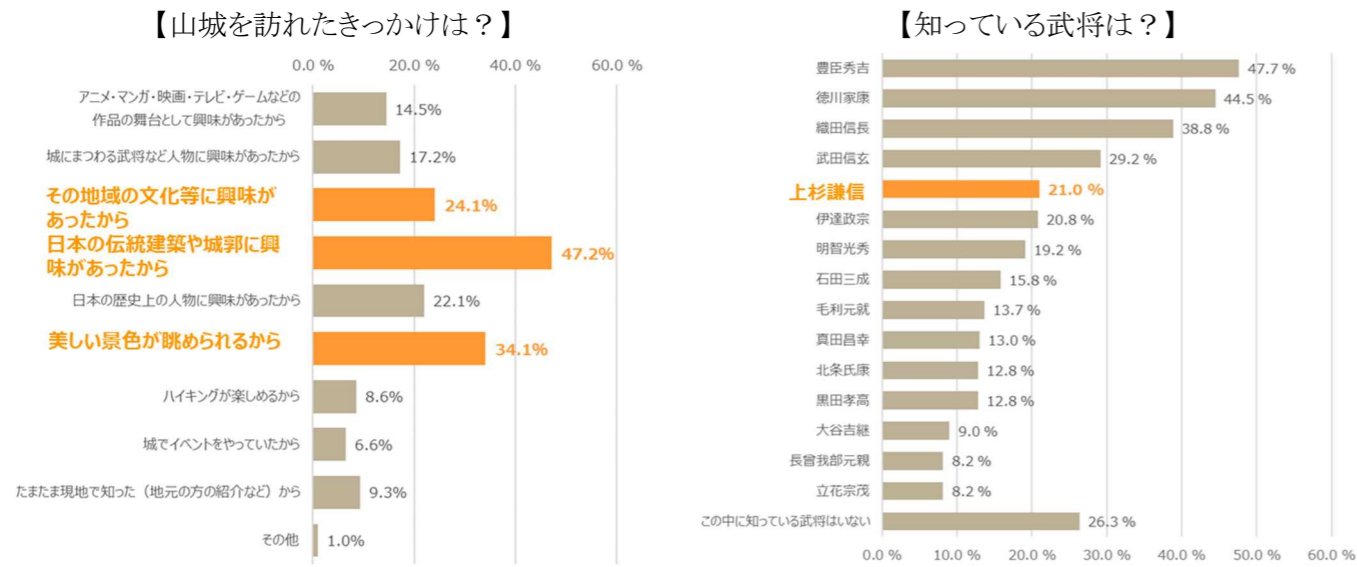
■事業概要■

持続的な観光地経営の実現を図るためには、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながるよう、地域・日本のレガシーとなる観光資源を形成することが重要です。こうした地域のレガシー形成には中長期的な事業実施が必要であるため、地域と連携しつつ、レガシー形成に関する実現可能性調査やプラン作成等を行うことを推進しています。

この度、上越市春日山城跡をこの事業に選定し調査を行いましたので、調査結果の概要をご報告するとともに、春日山城跡が上越市の市民の皆様のレガシーとなり、将来にわたって旅行者を惹きつける地域の歴史遺産として価値の高いものとなっていく一助になりますことを願います。

■アンケート調査■

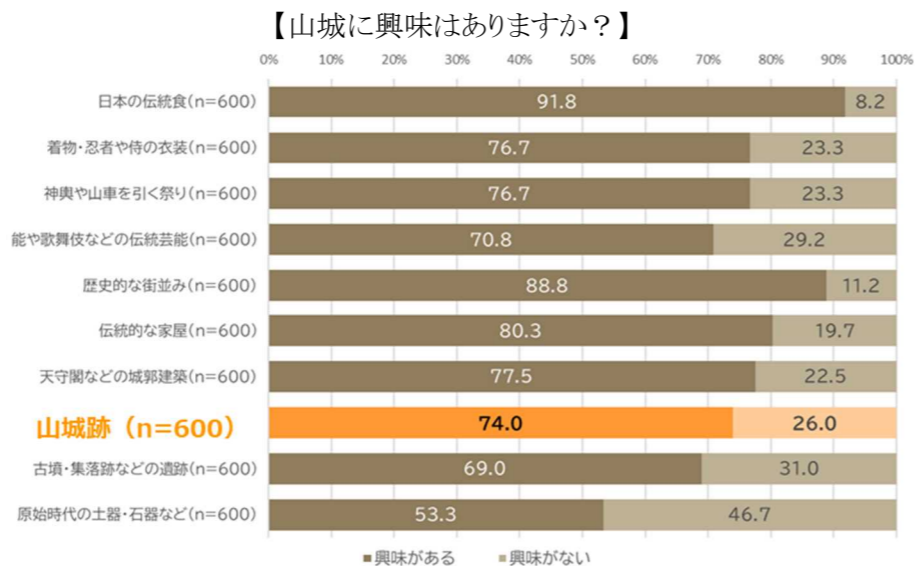
●外国人旅行者のニーズ調査



○「山城」へ訪れたきっかけの上位は、日本の伝統建築や城郭への興味、美しい景色、地域の文化等に興味があったから、という回答が多かったことから、復元によらずとも美しい景色や地域文化が売りになる可能性があることが分かります。

○「上杉謙信」の認知度は21.0%で第5位となり、海外にもその名が知られていることが分かりました。

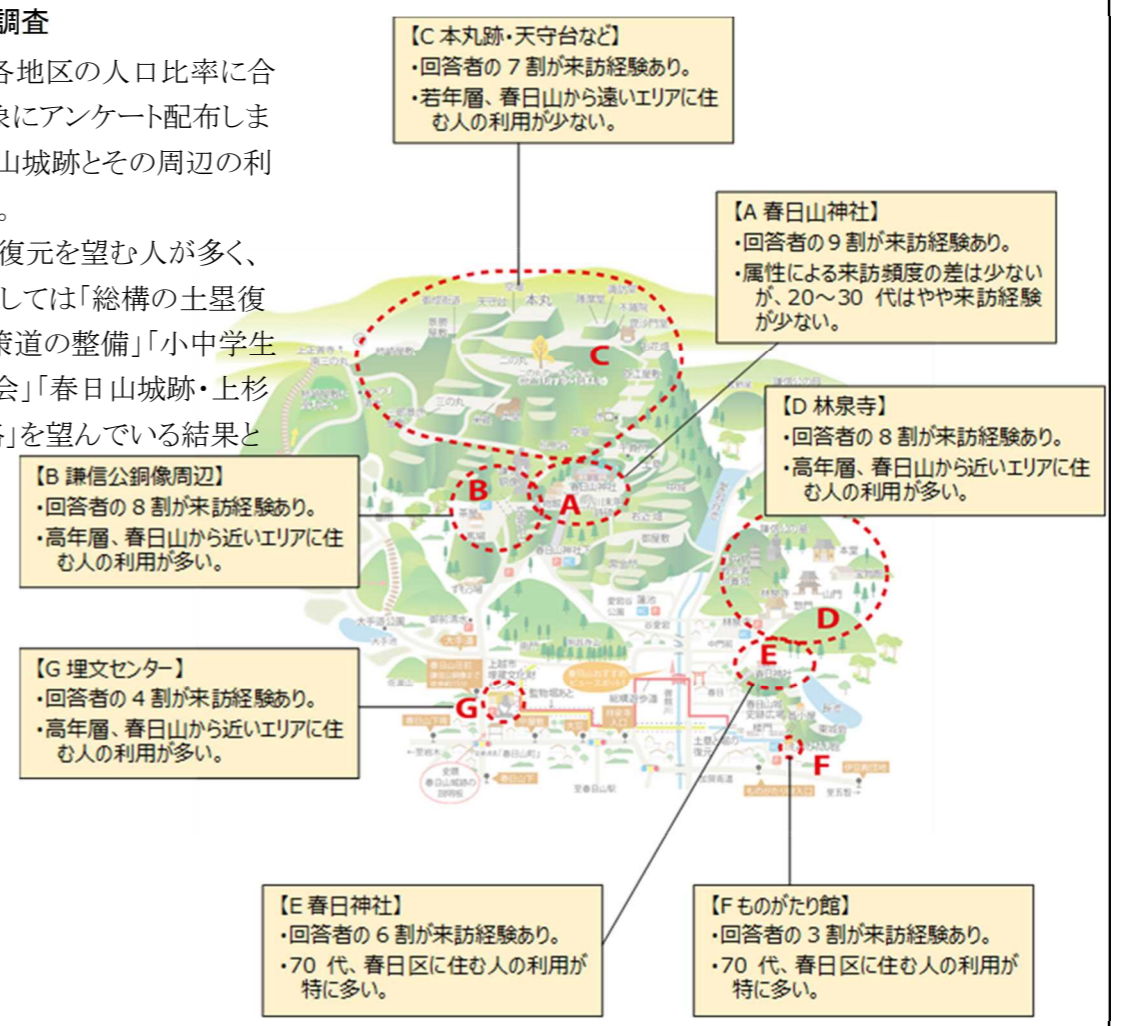
○山城に興味がある外国人の割合も高く、春日山城跡の海外客の来訪の可能性は十分にあることが分かりました。



●上越市民のニーズ調査

上越市民の中から各地区の人口比率に合わせて1,000人を対象にアンケート配布しました。その結果、春日山城跡とその周辺の利用状況が分かりました。

また、遺構の保護、復元を望む人が多く、具体的な整備・施策としては「総構の土塁復元、古道の整備」「散策道の整備」「小中学生が春日山城を学ぶ機会」「春日山城跡・上杉謙信公のイメージ戦略」を望んでいる結果となりました。



アンケート調査の他にも法令の調査や『国指定史跡 春日山城跡保存管理計画書』など上越市が策定している関連計画を整理した結果をもとに、春日山城跡の将来像と観光資源としての可能性を提案します。

■春日山城跡の将来像■

山城の復元に際しては、その外観を直接見て楽しむ場所としてだけではなく、戦国の世に思いをはせる＝想像するための空間を目指す。曲輪や総構などの場に留まっていたの想像、本丸等から下界を眺めての想像、府中(直江津)から春日山城を仰ぎながらの想像など、訪問客は当時の人々の視点で自らがシミュレーションして楽しむ空間を目指す。

■観光資源としての可能性■

- 上杉謙信と春日山城の一体的地域ブランド化
フランスと言えばエッフェル 塔やルーブル美術館がすぐに想起されるように、上越と言えば謙信と春日山城のイメージが容易につながるように、城と謙信公は単体ではなく、常にセットでのブランド資源とする。
- 映画やドラマの主体としての上杉謙信と春日山城
フィルムコミッションの設立や既存団体との連携を図る、過去の映像や写真等の記録を発信するなどすることで、メディアの題材としての資源となる。
- 観光地+健康増進地
広い総構や山道、散策道を整備し、多様な散策コースを設定することで、歴史探訪はもとより健康増進としての位置付けも可能となる。

上越の誇りである上杉謙信公が眠る春日山城跡を、一見して山城だとわかる往時の山容に復元し、地域の歴史ある景観に近づけます。また、古の道を登って山城から頸城平野を満喫できるようになります。

復元整備の基本方針：『上越のシンボル景観、往時の春日山城の山容を復元』

- 整備方針1：往時の山城景観を復元・・・整備項目①
- 整備方針2：山城中核部の地形を明瞭化・・・整備項目②
- 整備方針3：山裾から本丸に至る古の道を感じられる遊歩道を再整備・・・整備項目③
- 整備方針4：総構直江津方面からのアプローチルートを創出・・・整備項目④



- ①戦国の世に思いをはせる往時の山城景観を復元し、堀・曲輪・土塁が望める遠景と山城からの眺望を確保。
- ②堀内部の堆積土鋤取り、曲輪・土塁の整形や植生による法面保護、繁茂した雑木・雑草の除去により景観復元を行い、山城中核部の地形を明瞭化。(春日山城の特徴である堅堀とひな壇状の曲輪が分かる景観整備)
- ③千貫門を通る古の道を感じられる遊歩道を再整備し、遊歩道を登って城を満喫できるようにする。(砂利やチップを敷く)
- ④楼門から春日神社－林泉寺－愛宕谷公園－御屋敷跡を見学して山城へ登る気分を盛り上げるルートを整備。(案内板、誘導サイン、道路舗装の美装化など)

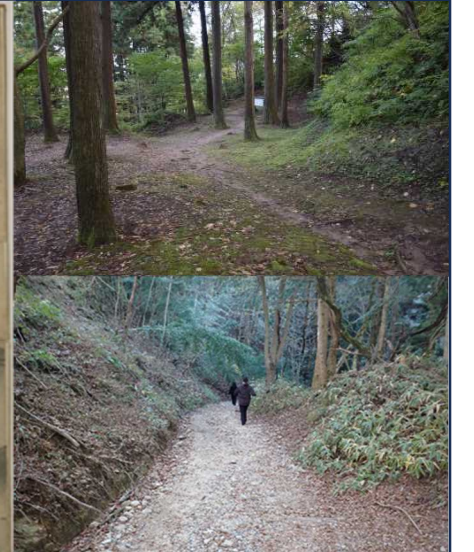
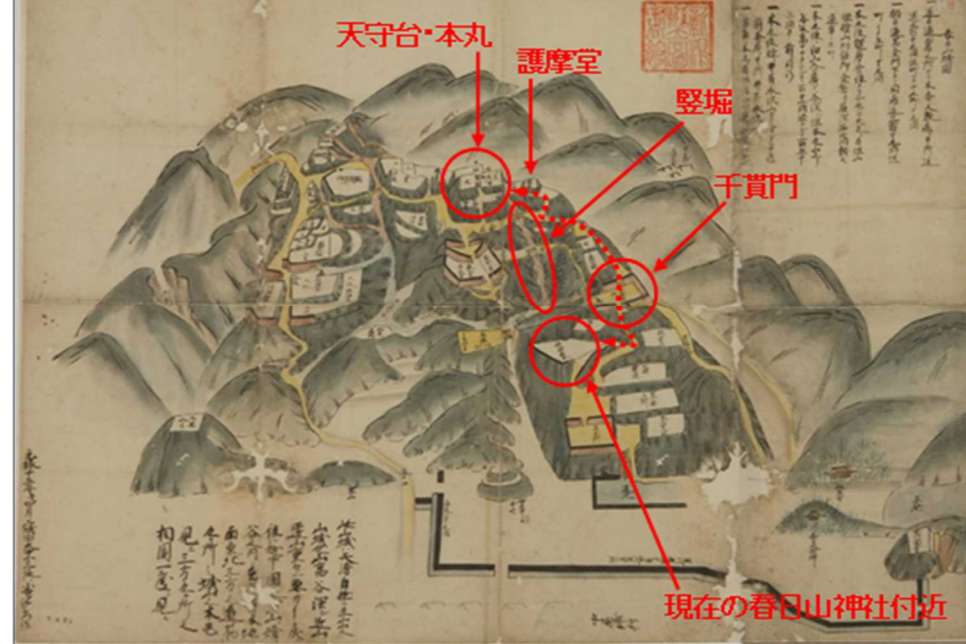
これまでに杉の間伐を進めて、往時の山容が徐々に蘇ってきています。今後は、直江屋敷の方の間伐を進め、往時の山城の姿を景観復元します。
(写真左:現在、右:大正時代)



写真上：本丸へ登る途中や本丸からは直江津港や米山、さらには頸城平野が眺望できます。謙信公が見たであろう戦国当時の景色を想像しながら山城散策を満喫できるような整備を目指します。
写真下：三の丸から二の丸へ登る途中で、春日山城跡の特徴がよくわかる堅堀と土塁を見下ろすことができます。今は雑草など植物が繁茂していて分かりにくいですが、迫力ある山城の地形が見えるようになる復元整備を目指します。
写真右：春日山城の見どころの一つである堅堀の冬の様子です。葉が生い茂っている時期に比べて、冬は地形が良く見えるようになります。このような迫力ある山城の地形が夏でもわかりやすくなるような整備を目指します。

千貫門を通る古の道を感じられる遊歩道を再整備し、遊歩道を登って城を満喫できるようにします。

※「春日山城図」(元禄15年(1702)新潟県立図書館蔵)より引用



写真上：現在の千貫門付近
写真下：チップ敷園路の整備事例(復元整備イメージ)

今回の調査の結果、「謙信公」の魂が眠る春日山城跡はレガシーとなる可能性が十分にあることが分かりました。レガシーは地域のシンボルとなり、お住いの方々の誇りになります。形成したレガシーを地域の文化や関係のある地域と結び付けることによって魅力がより高まり、訪れる方を強く惹きつけることができます。そのことで地域が活性化し、持続可能な発展につながります。